

ふるさとふちゅう

再発見

【第55回】府中が農村だったころ（15）／用水（2）線香水

岡田用水は、地元では線香水と呼ばれています。この由来については、府中公民館が創立五十周年記念で発行した『府中昔話』や吉田美江子さんが編集・発行した『語り伝えたい府中の話』に紹介されています。岡田用水が流れる上岡田・下岡田・石井城に広がる田畑は真砂土で「水も

て」が悪く（保水力が弱く）、農業をする人々は困っていました。特に梅雨が終わり渇水期になると誰もが自分の田に少しでも多くの水を欲しいと考えます。稲が一番育つ夏の稲田に水は切られませんか。時に畔に穴を開けて水を盗む人も出て、見廻りの人と鍬や鎌を振り回す大喧嘩になることもあったと言います。これが「水争い」です。そこで関係者が話し合い、水番を決め順番に水を管理しました。この時に皆が公平に水を得られるように、水番が用水から自分の田に入る水量は線香一本が燃え切るまでと決めたのです。水は昼夜関係なく流れるので、水番もいつの時間になるかわかりません。夜であれば蚊には食われるし暗くて怖いので、2〜3人で焚火をしながら行いました。次の水

番がきて確認をして交代です。線香一本燃える間の水取りだったため線香水と呼んだのです。

「府中昔話」では、ある時この約束を破り、2本分を引いて自分の田を水でいっぱいにした人がいたそうです。自分の田のための線香が燃え切っても次の水番が来ないので、もう1本分水を引いたのです。ところが翌朝、田の草取りに来ると前夜いっぱいになったはずの田の水が無くなっていたといひます。皆はこれを不思議がり、それから線香水の約束は誰一人、破るものはいなくなつたとのことでした。約束は破らないようにとの戒めなのでしょう。



府中昔話の写真

府中町文化財保護審議会委員

菅 信博

図書館からの
今月読むならコレ！

町立図書館 ☎286-3405

図書館職員が
選んだおすすめ
図書を紹介

※当コーナーは、今月号をもって連載を終了いたします。これまでご愛読ありがとうございました。「図書館だより」でもおすすめ図書を紹介しています。町HPをご覧ください。



大人向け



日本史のなかの広島県

白井比佐雄／編 山川出版社／出版

原始時代から現代まで、各時代に県内の史跡・文化財がある場所でどんなことが起きていたか解説されています。厳島神社や原爆ドームのような有名どころだけでなく、エリア別史跡・文化財マップにはいろいろな史跡・文化財の場所がびっしり。府中町の下岡田官衙遺跡や早馬立の名前も出てきます。

子ども向け



学校では教えてくれないゆかいな日本語

今野 真二／著 河出書房新社／出版

私たちが毎日使う日本語には、大人も知らない謎がたくさん！「五十音表」には四十七音しかない？しりとりに勝つには「ラ行音責め」？遊び心いっぱいの「ゆかいな」日本語を知ると、これからの読書や会話がもっと楽しくなりますよ。

府中町公式Instagramアカウント

まちの魅力を発信しています。

「わが家のアイドル」では、お子さん・お孫さんのお写真・動画も募集中！

Instagram
はこちら応募は
こちら▶